

中野区教育委員会会議録 平成26年第35回定例会

○開会日 平成26年12月12日（金）

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午前 10時00分

○閉 会 午後 3時00分

○出席委員

中野区教育委員会委員長	小 林 福太郎
中野区教育委員会委員	渡 邊 仁
中野区教育委員会委員	田 中 英 一
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した関係職員

教育委員会事務局次長	奈 良 浩 二
副参事（子ども教育経営担当）	辻 本 将 紀
副参事（学校再編担当）	石 濱 良 行
副参事（学校教育担当）	伊 東 知 秀
指導室長	川 島 隆 宏
副参事（子ども教育施設担当）	伊 藤 正 秀

○担当書記

子ども教育経営分野	片 岡 和 則
子ども教育経営分野	高 橋 綾 菜

○会議録署名委員

委員長	小 林 福太郎
教育長	田 辺 裕 子

○傍聴者数 10人

○議事日程

〔報告事項〕

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

① 12月5日 平成25・26年度「学校教育向上事業」研究指定校研究発表会  
(平和の森小学校)

② 12月6日 第27回中学生意見発表会

(2) 事務局報告事項

① 平成26年度体力テストの結果と体力向上に向けた取組 (指導室長)

〔その他事案〕

(1) 第3・第4ブロック校長・園長との意見交換会

中野区 教育委員会  
第35回定例会  
(平成26年12月12日)

## 午前10時00分開会

小林委員長

おはようございます。教育委員会第35回定例会を開会いたします。

本日の委員の出席状況は、全員出席です。

本日の会議録署名委員は、田辺教育長にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりです。

ここで、傍聴の方にお知らせをいたします。本日は教育委員と第3・第4ブロック校長・園長との意見交換会が予定されております。傍聴の方につきましては、本日の報告事項終了後にご退室となりますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、日程に入ります。

<報告事項>

<委員長、委員、教育長報告>

小林委員長

まず、委員長、委員、教育長報告です。

私から、12月5日の第34回定例会以降の委員の主な活動について、一括して報告をいたします。

12月5日金曜日、平成25・26年度「学校教育向上事業」研究指定校研究発表会、平和の森小学校で行われました。この研究発表会には、大島委員が出席をしております。

12月6日土曜日、第27回中学生意見発表会、これには渡邊委員、それから田辺教育長が出席をしております。

私からの一括報告は以上であります。

各委員から補足、質問等、ご発言がありましたらお願いをいたします。では、渡邊委員。

渡邊委員

おはようございます。私のほうは、12月6日土曜日ですけれども、午後からの第27回中学生意見発表会のほうを、昨年に引き続き、今回聴講させていただきました。内容は15演題ぐらいありまして、事情により、途中で退出させていただいたのですけれども、それまで聞かせていただきました。1人当たり約5分程度の意見発表で、テーマもいろいろな分野にわたってございました。その中で、いじめに遭っていたとか、自分の体験談をもとにした意見発表もあって、内容的には本当にしっかりした、本当に内容も最後までまとまりのあるような、すばらしい意見の発表があって、こういうことは代表者なのですから、

各学校などでもこの自分の意見を発表するようなそういう場みたいなものをつくっていくと、文章をまとめて発表するという、そういう機会としてはとてもいいのではないかなと思っておりました。また、発表のために本当によく読み込んで、詰まることもなく、すらすらときれいに読んでいただけるし、ほとんど暗唱しているような子どももいらっしやつて、本当にすばらしいなと思いました。こういったことが27年も続いているという、かなり歴史のある会ですので、今後もこういった会を大切にしていきたいなと感じました。

以上です。

小林委員長

ありがとうございます。では、大島委員、お願いします。

大島委員

私は、12月5日の平和の森小学校で行われました、研究発表会に行つてまいりました。これは、中野区教育委員会で研究指定校ということをしている、学校教育向上事業の一環として行われているものでして、この平和の森小学校で行われたのは、生活科、社会科を通しての研究でして、一人一人が考え学び合う授業というテーマで、先生方が2年間にわたつて研究をされた成果としてのものなのですが、初めに1時間授業があります。その後で、先生方による協議会がありまして、その後で全員体育館に集まつて、ゲストとしてお招きした帝京大学大学院の中田先生の講演をいただいてということなのですけれども。

生活科、社会科というのがテーマなので、各1年から6年まで、それに沿つた授業なのですけれども、すごくよく考えられていて、例えば1年生は家庭の中で、どんなときにニコニコが出てくるかなというようなことを、家族の中での人間関係みたいな、そういうテーマで。

2年になると、まちの宝物を発見ということで、この近所にあるいろいろな施設とか、例えば神社とか学校施設とか公園だとか。それから、商店なんかもあるのですけれども。そういう宝物と思えるような場所なんかをみんなで地図で示したりして、そういうまちの宝物を探そうねと。

3年になると、お店にスポットを当てて、スーパーマーケットと個人商店の違い、近所にある分布なんかも地図で示したりするのですけれども。それぞれどういう特徴があるかなんていうのを比べたり。

4年になると、東京都の檜原村というところを取り上げて、東京都とは言いながら、山に囲まれた檜原村。それと、中野みたいなまちと。そういったまちと山の暮らしの比較と

いいですか、どういう特徴があるのかなんていう。

5年になると、自然とともに生きるということで、砂防ダムなんかを取り上げて、ダムというのはどういう役割があるのかとか。自然環境というようなところにも目を向けてということ。

6年になると、日本と世界とのつながりということで、世界における日本の役割とか、世界とのつながりというようなことに目を向けるということで、だんだん学年が上がるにしたがって、広いところに目を向けていくというような構成になっていまして。とても、社会科とか生活科を通しての先生方の研究というのは、すごく深くされているなというのを感じた授業でした。それぞれ、子ども同士で話し合うというような場面をつくったり、それからグループごとの発表があったりとか、先生がうまくリードしてというようなことで、とても授業はよかったと思います。そういうことで、ただ、協議会の時間がちょっと短かったので、先生方も発言や何かも不完全燃焼みたいなところがあって、もうちょっと時間がとれたらよかったのになと思いましたけれども。でも、たくさんの先生方が140名近く来てくださって、すごく盛況で、皆さんにも刺激になったのではないかなと思いました。私からは以上です。

小林委員長

ありがとうございます。それでは、田中委員はよろしいですか。では、田辺教育長。

田辺教育長

12月10日ですが、毎年行われています、ことしで6回目になるのですけれども、東京中学生駅伝の中野区選手団の結団式がありました。これは2月9日だったと思うのですけれども、味の素スタジアムとその周辺の公園で行われるのですけれども、中野区内の国立、都立、私立、区立の中学生が集まって、選手団を結成して、これから練習に励んで2月を迎えるということです。昨年は大雪で中止になってしまったので、その分も含めて頑張りますみたいな決意表明も、中学生からありました。これも6回目ということなのですけれども、毎年結団式があつてから毎週土曜日に各学校から選手団が集まって練習をしてきたのですけれども、なかなか子どもたちが部活であつたり自分たちの塾とかそういうこともあつて、選手が集まらないというような悩みがあつたようで。ことしは集中して2回だけピンポイントで全体練習をして、あとは試走会があるのですけれども、そういう形でやってみるというようなことで。あとはそれぞれが日々自分で練習を積み重ねてやりなさいという形式に変わったというようなことで、役員の代表の南中野中の校長に話を聞き

ますと、やはりなかなか生徒が集まらないのが、本当に練習に集まらないのが悩みで、こ  
としはこうした形で練習をピンポイントでやるということにしたのだけれども、というよ  
うなお話をしていまして、連合でやることの大変さというか、中野の場合は先ほど中学生  
の意見発表会でも、公立、私立全部の学校が集まってやるというような取組が幾つもある  
のですけれども、そうしたことは、本当に役員の先生方が打合せをして、一つのものをつ  
くっていくことの困難さというのを感じた次第ですけれども。それを乗り越えても、や  
はり意味のある成果のものになっているのではないかなというふうに思いました。2月を  
楽しみにしていきたいと思っています。

小林委員長

ありがとうございます。ほかによろしいでしょうか。

それでは、ご発言がないようですので、ここで事務局報告に移りますが、ここで傍聴の  
方にお知らせをいたします。本日の事務局報告事項の資料は、区議会への報告前の資料と  
なりますので、後ほど回収をさせていただきます。傍聴の方はご退室の際に事務局へ各資  
料の返却をお願いいたします。

<事務局報告>

小林委員長

それでは、事務局報告事項「平成 26 年度体力テストの結果と体力向上に向けた取組」の  
報告をお願いいたします。

指導室長

それでは、お手元にございます「平成 26 年度体力テストの結果と体力向上に向けた取組」  
についてご報告を申し上げます。この体力テストにつきましては、毎年実施をしているも  
のですが、まず趣旨が 3 点ございます。一つ目が児童・生徒本人に対して、実態に合った  
体力向上プログラムを実施していくこと。主体は学校という形になります。二つ目が、児  
童・生徒本人が自分の体力の現状とか課題を把握して、その後の取組につなげていくとい  
うこと。三つ目が、教育委員会としては全体的な傾向把握をして、それに応じた施策です  
とか事業を実施するというので、毎年の実施をしているものです。

対象学年は小学校 1 年生から中学校 3 年生までの全ての児童・生徒で、実施種目につき  
ましては、資料の通りです。中学校のみの種目は持久走、男子 1,500 メートル、女子 1,000  
メートルというものが入っています。5月から6月にかけて、学校で実施をしたというこ  
とであります。後ほど結果についてはご説明いたします。

結果の活用につきましては、大きく2点ございます。1点目が、各学校が子どもたちの実態を把握して体育の授業その他行事等を含めた体力向上プログラムを改善していくということ。それから教育委員会のほうでは、先ほども申し上げましたが、今後の施策に生かしていくということです。その中心となってくるのが、到達目標、中野スタンダードというものがあります。アスタリスクで書いてありますが、これは平成18年度に実施をした体力調査の中野区の結果の中で、7割の児童・生徒が到達をしていたというものを目標値として、それを目指すということ、クリアすることを目指すということになっています。

結果についてご説明をいたします。(1)のほうが区の平均と都の平均の比較。右側の(2)が中野スタンダード、目標値を通過した割合ということで構成されています。最初に右側の中野スタンダード通過率についてお話をしたいと思います。

資料で網かけになっているものが、児童・生徒の通過率が70%を超えている項目ということで網かけになっています。毎年傾向ですが、握力の部分とボール投げの部分で、網かけがなかなかかからないというような傾向があります。平成26年度、下の段の一番下に米印がありますが、全部で150項目ありますが、目標値に達した項目数が、平成25年度が80で約53%、26年度が79で52.7%で、大きな変化はないというところが特徴かというふうに思います。

今度は左側のほうなのですが、東京都との平均の比較になります。白三角と黒三角で都の平均を上回っている、又は下回っていることを表す形になります。これも大きな傾向としてはではないのですが、平成25年度と26年度を比較しますと、黒三角が非常にふえているというのが一つの特徴かと思います。東京都が全体で体力が全国平均に比べて低いということで、今後5年ぐらい力を入れて体力向上といったところで、取組をしています。中野区も同じような取組をしているのですが、中野区を取組を東京都全体で上回っているような形になっていまして、その結果、東京都と比較をしますと、やはり平成26年度の下欄外ですが、150項目中で、平成25年度が73、49%であったものが、平成26年度は44、29%ということで、都の平均を上回るものが大きく減ってしまったというところが今年度の特徴だというふうに考えます。

それを受けて、考察と今後の方策というところで、3ページの下段に書いてございますので、詳細については、今説明をいたしましたのでお読み取りいただければというふうに思います。

最後に4ページ目をごらんください。今後の方策ですが、これは先般の区議会でもご質



問をいただいたのですが、運動の日常化、子どもたちが学校外でどのぐらい運動をしているのかというあたりが、大きなポイントとなってくるだろうと。公園で遊んでいても、ポケットゲームといいますか、携帯ゲームを4から5人が持ち寄って遊んでいるという場面を多く見かける時代の中で、どうやって日常化に取り組んでいくかというところは大きく見直していかなければいけないなというふうに考えてございます。かと言って、丸の2番目に書きましたが、トレーニングをやればいい、要するにうさぎ跳びをやるとかということが果たしていいのかというところは大きな疑問がありますので、そういう形でない形で、どうやって楽しく運動に接する場面をつくっていくかということですね。3番目の丸で書きましたが、とはいえ、こういう現状がありますので、今後体力向上月間ですとか、何かきっかけになるような仕組みをつくっていくということで、教育委員会として考えていきたいなというふうに思っております。

最後、4番目につきましては、これは各学校が作成する体力向上プログラム改定のポイントということで、(1)から(3)まで挙げさせていただきました。(3)の投力、投げる力の向上というのは、これは毎年同じような記述をさせていただいているのですが、やはり体をひねるとか体重を移動させるとか、そういうポイントみたいなものを遊びの中でどうやって取り入れていくかというところが課題になってくるかなというふうに思います。

報告は以上でございます。

小林委員長

ありがとうございます。

ただいまの報告につきまして、質問等、ご発言がありましたら、お願いをいたします。

渡邊委員

まず、総論的な意見なのですがすけれども、中野スタンダードが決められて、今のご説明だと平成18年度に70%の児童がクリアできた数字を目標にしてつくっていこうということで、その考え方は悪くないのですがすけれども。そして今回の結果を受けて、中野スタンダードは全体的に多くの生徒たちは上回っていて、満足する結果が得られたと。けれども、都の平均を見てみると、明らかにおくれをとっているというその事実があると、中野スタンダードのその基準を、十分見直す必要があるのではないかとか、中野スタンダードはクリアしたけれども、全体で見れば落ち込んでいるとなってしまうと、この目標値の設定を切りかえるという作業はされているのでしょうか。

指導室長

ご指摘の通りでありまして、この目標値が適切かどうかというところは、内部でも今議論をしています。次年度に向けて、学識経験者を入れたような検討委員会、目標値だけではなくて、全体のつくり、体力向上プログラムのつくりなども、抜本的に考え直さなければいけないというふうに思っております、その方向に向けて作業を進めていきたいと考えています。

#### 渡邊委員

今度は各論的な話にしますと、都の平均というような形で見ていただいて、2ページの全体の表をぱっと見ますと、黒三角、下回っているものがずらっと目についてしまうのですけれども。その中で、一番最初の1ページ目に出ていた実施種目、種目の中にそれぞれの目的が、握力、筋力とか柔軟性とか持久力とかと書いてあるのですけれども、この内容が意外に重要でして、上体起こしとか、立ち幅跳びとかって、そんなに練習を要するものではないのですね。その者の肉体の持っている力をあらわしているものなので、これを見ると、中野区の子どもたちというのは明らかに筋力が弱いと。それで、投げるというのはこつというのがあって、こつを覚えた人が長く投げられるとか、テクニックでカバーできるものは、実際には練習させれば向上できるのですけれども、そういうものを考えるというよりも、基礎体力にかかわる立ち幅跳びとか、上体起こしとか、筋の持久力を試すようなシャトルランみたいなものとか、そういったものは本来その肉体が持っているものをそのまま評価しているのに近いものですから、そういったところの専門家の分析というか、もうちょっと課題を見つけて、そこの課題に対してやはりいろいろと検討をしていく必要があるのかなと。フラッグフットボールというのは、総合的にその内容が取り込まれていて、俊敏性もあるし、瞬発力、筋力、そしてボールとか球の扱いその他、非常にすぐれているのですけれども、少し朝のランニングだとか、そういった一般的なもの、そういった筋力を高める運動って時間がかからないので、一日10回とか20回やって、朝夕だけで筋力って結構つくので、そういったものを授業の前に取り込んでいくとか、そういった中野独自のちょっとした工夫なんかも考えていただければ、こういったところもぐっと伸びるのではないかなって思いますので、ぜひ検討委員会を早く立ち上げて、検討していただくことを期待しております。

#### 指導室長

今、渡邊委員がおっしゃったとおりだというふうに思っています。今、教育委員会としては、民間のスポーツを専門に扱っている団体にちょっと協力をしていただきまして、一

つの学校をモデルに、プロの目を見て、例えばこういうやり方をしたらどういうふう子どもが変わっていくかというところをちょっと試しているというか、データを取っていますので、その辺のデータも踏まえて、検討委員会の中でオール中野で取り組んでいく方法ですとか、先ほどおっしゃった、体育の準備運動の中に、例えばこういうのを定期的に入れていくとか、そんなことも考えていきたいなというふうに思っております。

渡邊委員

よろしくをお願いします。

大島委員

知・徳・体ってそれぞれ大事なのですけれども、やはり社会人になって、ここまで生きていきますと、やはり実感するのは、社会に出て何をやるにしても、体力が一番大事だなと。これがないと、仮にどんなに頭がよかったりしても、まして人格がよかったりしても、とにかく仕事にならないといえますか、皆さん実感していると思うのですけれども。やはり体が資本なので、その基礎というのは、子どものときにしっかり基礎的な体をつくっておいてあげないと、これは教育の責任ではないかなというふうに思います。でも、現実問題としては、私たちが子どものころなどは家の近所に原っぱがいっぱいありましたので、学校から帰ってくるとそういう原っぱで駆け回ったり、何かボールを投げたりとか、日常生活でやっていたのですが、今はもうそういう原っぱもないし、みんな塾とかでいろいろと忙しくて、家に帰ってから運動するというのを期待されても、まずほとんど無理と思うのです。そういうふうに考えてみますと、やはり学校にいる間にとにかく、少しでも運動、体力をつけるようなことを学校でやらせるようにするというのが学校への課題になってきているかなと思うのです。今も渡邊委員とか、指導室長のお話にもいろいろ研究しているというお話があって、とてもいいことだなと思ったのですけれども、私などが学校をいろいろ回って見た中では、学校独自でいろいろと工夫して取り入れている学校もあって、例えば昼休みに全員で校庭を走るとかをやっている学校とか、縄跳びを奨励していて、縄跳びの記録をつけたりしてみんなでやるようにしているとか。あと、昼休みにボール投げを奨励しているとか。いろいろやっている学校はあるのですけれども、やはりそういう学校に行ったらできる。でも、ほかの何もやっていない学校に行ったら、何もできないというのでは困るので、やはり中野区全体として、どの学校でも何か取り組むと。それで今お話があった、筋力をつけるというのもすごく大事だと思うのです。それは、そんなに時間をとらないでできるという渡邊委員のお話もありましたけれども。その辺をぜひ検

討していただいて、学校生活の中でそんなに時間はとれないにしても、みんなでやると。

1年に入ったときから6年で出るときまでで、すごく変わっているというか、筋力とか体力がついているみたいなふうに持っていければいいなと思うので、ぜひ中野区では、中野区の学校に行くと体力がつくよみたいなふうに売りにできるくらいに、何かプログラムを取り入れてできるようになるといいなと思うのですが。ぜひ、よろしくお願いします。

指導室長

今、大島委員がおっしゃったように、例えば縄跳び月間だとかマラソン週間だとかという事で、各学校、これは多分どの学校も時期は別にして、中身については設定をしてやっているかというふうに思っています。ですので、それを通してどれだけ上げていくかというところで、一工夫、二工夫については、今後の課題としたいなというふうに思っています。それから中学校では、中学生の場合、体育の授業だったり部活で運動部に入っているお子さんは運動するのですけれども、どちらかというあまり運動を好まないお子さんも中学生になると大分ふえてくるという実態もございます。ある中学校では、水曜日の午後の時間帯を使って、そういう部活に入っていない、運動部に入っていない子どもたちを集めて、過酷な練習ではなくて、簡単な、楽しんで運動に親しむというような取組をしている学校もありますので、そういったものも幾つか学校であるので、参考にしながら今後考えていきたいなと思います。

田中委員

今、各学校でいろいろな取組があるということで、素晴らしいなと思ってお聞きしたのですけれども。このデータは1年に1回で、中野区全体とか各学校がこれだけデータが上がったという評価はできると思うのですけれども、やはり生徒たちにとっては、もう少し短期的にこんなことを頑張ってみたら体力が上がったと。例えば、握力がふえたとかという、身近な達成感みたいなものを感じることは、割と将来につなげていく上で大事なかなと思うのですけれども、その辺はそれぞれの学校で取り組んでいらっしゃるのでしょうか。

指導室長

例えば体育の授業で、50メートルとか100メートルとかの短距離の授業をすると。最初のタイムと、それから指導を受けてトレーニングした結果、どのくらいタイムが上がったかというものは、効果測定はするという形になりますので、そのやる種目によってやり方は違うかとは思いますが、最初の段階と授業の単元の最後の段階でどのくらい伸びたかというのは、授業の中で必ずとは言えませんが、取り入れている先生は多いのではな

いかなというふうに思います。

#### 渡邊委員

確かに上体起こしとか、毎日体育の前とか朝に上体起こしの練習をすると、アップするのですよね。それって学力の問題でやると、ちょっとだめかなと思うのですけれども。ラジ体操の話が以前に出たと思うのですけれども、ラジ体操を超える体操をつくろうと思うと、なかなかつukれない。この評価項目に関しても、ある一定のものをつくろうと思って、筋力とかというものを評価しようということでその競技を選んだ理由というのがあるから、ですからそういう意味ではこれをやることによって、そのある程度の目標は達成できるというのも事実なのです。ですから、それだけを練習させて、毎日50メートル走をしていると、早くなるのですよね。でもそれはやはり瞬発力だとか、ける足だとか、けるための足の筋力というのがあるのですけれども、そういったものをつくのです。だから、そういうことを単純に課題をくれたのだから、その目標値もくれているわけですから、その目標値をつけて、課題をつけて、それを一つずつ練習していくという田中委員の言われたやり方は確かにありかなと思うのですが、それは専門家たちの検討委員会で検討していただきたいと思います。

今思い出したのは、部活の関係をちょっと気になっているのですけれども。子どもたちが部活動、特に運動系の部活動を、特に生徒が少なくなったことによって、バレーボールや大人数でやるものについて、選手が集まらないからできないとか、クラブにならないとか、そういった話を少し耳にしたことがあって、そういったことで、特に中学生になるのですけれども、中野区の部活離れが、又は部活の活動力が下がったゆえに、全体的に子どもたちの体力が落ちたかというようなところが少し気にはなりますので、もしそういったデータとか、そういったことも調べていただければ、やはり部活動を一生懸命やっている学校は結構よかったとか、部活をやっている子どもたちは体力はあるはずだと思うのですけれども、そういうようなことで、統計ということでもないのですけれども、そういった傾向もちょっと見ていただきたいなと思っております。

#### 指導室長

区内の部活、特に運動部との関係についてはデータがあるのですが、それと各種目のクロス集計というのはちょっと今の段階でしていませんので、今後の課題というふうにはしたいと思いますけれども。運動部に所属している割合が、中学校ですけれども、男子が69%、女子が53%、平均が62%という形になります。部活は運動部だけではなくて、文化部もあり

ますので、文化部のほうが男子が15%で女子が44%、平均で29%という形で、運動部だけではないのですけれども、部活に入っている割合は男子が85%、女子が98%ということで、9割くらいのお子さんが部活には入っていますが、運動部に関すると、先ほど、冒頭に言ったデータという形になります。

男子は約7割ですから、それなりの数字で。女子が5割ちょっとですので、そのあたりが、もう少し高めていければというふうには思いますけれども。ただ、部活はあくまでも自分の好みで入っていくものなので、必ずしも運動部でなければいけないというのではないかなというふうに思います。女子も全体で98%とありますので、そういった意味ではきちんとした目標に照らした形になっているのかなというふうに思います。

大島委員

中学校の部活ということで思い出したのですけれども、私も体を動かすことはすごく好きなのですね。でも、例えばバレーボールだとかバスケとかソフトボールという、部活に入る気になるほど何かうまいかというのと全然そういうほうの能力はないので、やはり何か運動部に入ろうかとも思いませんでしたし、入ったって脇で見ているとか、ボール拾いぐらいしかできないだろうしと。うまい人の中にまじってという、すごく臆する気持ちのほうが強いので、やはりそういう子も多いと思うのですよね。女子が半分ぐらいしか運動部に入っていないというのは。その入っていない子の中でも、入っていない子の体力向上ということも考えると、先ほど得意じゃない子を対象にして、週一回ぐらい何かやるという取組もあるということなのですけれども。何かその辺をもう少し充実させてもらって、特に能力がなくても何か体を動かしましょうみたいなものを、学校でぜひつくっていただきたいなというふうに思います。

指導室長

運動好きの子どもをふやしていくということが必要で、その究極は健康な体を維持していく、年が重なっていても自分でできる運動をすること、運動が好きだということは別に、健康をきちんと維持していくというのは目的のうちの一つになっていますので、逆にあまりやりすぎて、運動嫌いにするというのはやはり本末転倒の部分がありますので、そのバランスが難しいところなのですけれども、その辺もまたちょっと考えていきたいなと思っています。

田辺教育長

大島委員のご意見で思うことというか、この調査は全国的にやっている調査で、ちよっ

と前ですけれども、新聞にも全国的な傾向というのが発表されて、やはり中野と同じようにボール投げなどは全国的にも課題だというようなことも出ていましたし、多分中野の傾向も同じだと思うのですけれども、全国の評価の中で総運動時間が多い子と少ない子の二極化が目立ってきたという話がありまして、大島委員がおっしゃったように、運動好きだけれども運動する機会がない。部活ではなくて、別の場がないというようなこともあるのかなと思うのですね。そうすると、学校教育の中で体育をやる意味って、基礎的な体力をつくるとかいうこともあると思うのですけれども、生涯にわたって体づくりとか、健康づくりのために運動を続けていく習慣とか楽しさとかいうのを味わわせるということもあると思うのですけれども。なかなか学校教育の場で、小学校なら20分休みとか昼休みとか、いろいろな場を使ってですけれども、なかなか中学生になると、そういう活動もしにくくなってきたりする中で。ただ、地域を見渡しても公園はありますけれども、放課後になかなか公園で遊ぶというような、何か仕掛けをしていかないと、今の子どもたちで集団でやるということがないので、学校の場を使って放課後に、学校教育の場か学校教育ではない場なのかちょっとわからないのですけれども、学校という施設はやはり子どもも集まりやすいし、環境も整っていますから、そういう方向も考えていく必要があるのではないかなというふうには思っているのですね。中野区では今後、地域スポーツクラブを4か所につくるという話もあるので、その中で今も中部のほうではありますけれども、そういうところももうちょっとPRしてもらって、中野区の小中学生が参加できるプログラムということも、ぜひ担当のほうにもお願いしていきたいなと思いますし、また、教育委員会でも検討会を設けたいというふうに思っていますので、その中でどういう方法があるのかというようなことも考えていきたいというふうに思っています。

小林委員長

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

私も、今各委員の方々が述べていることと、同調する部分がほとんどであります。やはりこういったものは、子どもからすると何か実感というものがなかなか伴わないというのでしょうかね。それから、目標、目的が明確でないとか、私のような年代になれば、健康が大事だとか体力が大事だという自覚がありますけれども、子どもの立場からすると、そういう目的とか目標というものがなかなか見出しにくいものである。そういう意味では、一つのポイントは習慣化させるとか、もう一つ、今お話があったように、やはり楽しくできるというのが大きなポイントかなと思いますね。そういう点で、特に幼児期に関して遊

びをどう生かしていくか。そうすると、幼児教育、幼稚園や保育園との連携をどういうふうに小学校が、そういった体力づくりという点で認識しているかということ。

それから、部活動の効用というのが取り上げられましたけれども、私、今体育大学に勤務しているのですが、実は体育大学の学生で運動系の部活に入っている子は実は大体6割。私は行って見て意外と少ないなというふうに思ったのですね。中には高校までで燃え尽きてしまって、そして大学では楽しみながらやりたい。だから自分でスポーツクラブみたいなどころへ行くとか、それから全く違うものをやるとか、そういう傾向もあります。ですから、それはそれでいいとか悪いではなくて、ある意味では生涯学習というか生涯体育という視点で、今地域スポーツクラブのお話も教育長からありましたけれども、やはり入口は幼児教育との連携、そして生涯体育につなげていく視点というのを持っていく必要があるかなというふうに感じました。ただ、あまりこの数字をクリアすることが目的化してしまうと、本当に意味がないと思いますので、やはり運動好きとか、体を動かすことが好きな子どもをふやしていくという一つの方策を、これからも考えていく必要があるのかなというふうに思いました。

それでは、ほかによろしいでしょうか。

それでは、ほかにも報告事項はございますでしょうか。

副参事（子ども教育経営担当）

ございません。

小林委員長

それでは、報告事項は終了いたしましたので、傍聴の方につきましては、ここでご退室をお願いしたいと思います。それでは定例会を休憩します。

午前10時42分休憩

午後3時00分再開

小林委員長

それでは定例会を再開します。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第35回定例会を閉じます。

午後3時00分閉会